

# 周防大島町の話題

## 第67回 山口県漁村青壮年女性活動実績発表大会



▲1月15日、第67回山口県漁村青壮年女性活動実績発表大会において最優秀に選定され県代表となった浮島支店青年部の皆さん（右から桑原一吉さん、発表者の橋本将吾さん、吉村雄二さん）

## 赤貝産地日本一を目指して

3月2日に開催された第26回全国青年・女性漁業者交流大会で、山口県代表として「赤貝」の活動実績発表を行った山口県漁業協同組合浮島支店が、農林水産大臣賞を受賞しました。

水揚量が年々減少し危機的状況の中、漁家経営を維持するために平成18年から開始した赤貝の種苗放流。放流後のエイ等からの食害対策や、単価向上のための品質と規格の統一を徹底。その努力により、放流を始めた14年前に比べ水揚量、金額ともに4倍に増加し、小型底びき網全体の水揚金額も20年前の水準にまで回復したことを発表しました。

そして、県内各地が呼吸を合わせて赤貝の資源管理に取り組めば、赤貝産地日本一の山口県も夢ではないと話しました。

## 周防大島町総合計画案の答申書を提出

周防大島町総合計画策定審議会は、令和3年度からの次期総合計画策定に係る審議を2月4日に終了し、策定審議会の会長を務めた河原光雄氏が2月9日、総合計画案の意見や要望を取りまとめた答申書を藤本町長へ提出しました。

答申書を受け取った藤本町長は、「町民の皆さんの安全・安心のためにしっかりと取り組んでいきたい」「町民の皆さんの声を聞きながらまちづくりに努めていきたい」と話しました。



▲藤本町長に答申書を手渡す周防大島町総合計画策定審議会の河原光雄会長

## 今年度で一区切り、島スクエア



▲座談会の様子。それぞれの視点で、地域社会と起業に関しての考えを話す参加者。

2月14日、島スクエアフォーラムが大島文化センターにて開催され、事業報告、受講生の事業プランの発表や「地域で生きる・地域が生きる起業」と題し、株式会社くるとん代表 藤井康弘氏による基調講演などが行われました。

また、「コロナ後の地域社会と起業のあり方～地域を見る・知る・生かす起業～」と題し、座談会が行われ、起業家や地域おこし協力隊の視点などから、活発な意見交換が行われました。

13年間続いたこの事業も今年度で一区切りを迎えますが、来年度からも継続していきけるように新たな体制で取り組んでいく予定となっています。